

令和 8 年度第 1 回岐阜市立新大学準備委員会 議事概要

【日 時】 令和 8 年 7 月 13 日（月）10 時 00 分～11 時 15 分

【場 所】 岐阜市役所 14 階 14-1 会議室

【出席者】

（委 員） 杉山 誠委員長、中田 晃委員、大田 康雄委員

＜オンライン参加＞

斎尾 直子委員、吉田 俊介委員

＜欠席＞

廣田 孝昭副委員長、河野 廉委員、棚橋 武司委員

（招聘者）加藤 剛岐阜商工会議所専務理事

（オブザーバー）原岐阜市公立大学法人理事長兼岐阜薬科大学学長、久富同法人副理事長兼同学事務局長、伊藤女子短期大学事務局長、杉原企画部長

（事務局）＜企画部＞

小川大学改革推進課長 他

＜女子短期大学事務局＞

藤田総務管理課長、大西新大学設置推進課長 他

1 事務局からの報告等

○事務局（小川大学改革推進課長）

議事に先立ちまして、委員の交代がありますので報告します。

岐阜県高等学校長協会前会長の小野悟委員に代わり、同協会現副会長の棚橋武司委員にご就任いただいています。小野委員には、これまでのご尽力にこの場を借りて御礼申し上げます。

また、本日の会議には、事前に議長の了解を得て、岐阜商工会議所から加藤剛専務理事にご出席いただいています。なお、加藤専務理事はご都合により 11 時頃退席される予定です。

また、オブザーバーとして、岐阜市公立大学法人から原理事長と久富副理事長にご出席いただいています。

それでは、ここからの進行は杉山委員長にお願いします。

2 議事

○杉山委員長

それでは次第に従って議事に入りたいと思いますが、その前に、加藤専務理事

から一言いただけますでしょうか。

○加藤専務理事

岐阜商工会議所で専務理事を拝命している加藤です。本日は廣田委員の欠席によりお招きいただいています。会議に参加させていただき感謝申し上げます。

本日の会議については、廣田委員にもしっかり伝え、この機会に私も改めて考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

○杉山委員長

ありがとうございます。産業界からの意見は非常に大切ですので、よろしくお願いします。

併せて、今回は岐阜市公立大学法人に関する議題がありますので、オブザーバーとして同法人の原理事長、久富副理事長にご出席いただいています。

代表して原理事長から一言お願いできますでしょうか。

○原理事長兼学長

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

これまで本委員会で議論し、一定の結論を出された岐阜市立新大学基本計画（以下「基本計画」という。）を拝見しました。その後、いろいろと状況の変化がありましたので、それを踏まえて今回、再度検討した内容を皆さんにご案内したいと思います。どうぞ活発なご議論をお願いします。

○杉山委員長

昨年度、当委員会で基本計画案を検討してきましたが、大きな変化があったということです。基本計画の改定について事務局から説明をお願いします。

◆岐阜市立新大学基本計画について
（事務局から資料に基づき説明）

○杉山委員長

これまで、少子化の中で新大学をどうするか、また地域において必要な学部について議論してきたところですが、昨今の流れを考えると、大学自体を減らす、理系へシフトするという中で、現実的に基本計画の内容が厳しくなってきたことが方針変更の背景にあるかと思います。さりながら、これまでの議論を踏まえてどう生かすかが求められます。

前回の基本計画との大きな違いは、まず、今まで 1 法人 2 大学で話を進めて

きましたが、1 法人 1 大学とし、新たな大学の設置は難しいため新学部を設置する形になりました。これがまず一つです。それから、定員の増員を考えていましたが、それが現状維持という形になったことが 2 点目のポイントかと思います。

もう 1 点非常に大きいのは、我々は開設を 3 年後、5 年後と少し先行きを曖昧にしながら進めてきましたが、今回、令和 11 年 4 月開設とかなり具体的に設定されたことが大きな違いです。率直に申し上げますと、この年度での設置となると相当急ピッチで作業しなければならない状況です。

岐阜大学も令和 12 年度改組の手続きを行っていますが、既に文科省とやり取りをして了承をもらい、今ほぼ終わりにかけているくらいのところですので、令和 11 年度となると今の段階ではほぼ固まっていないと厳しいのではないかというのが経験上思うところです。

以上、3 点がポイントとなりますが、皆さん事前にある程度説明を受けているかと思うので、ご意見を伺いたいと思います。

名簿順ですと河野委員ですが、本日ご欠席のため前もって意見を頂いていると伺っていますので、ご欠席の河野委員、棚橋委員からの意見をお願いします。

○事務局（小川大学改革推進課長）

河野委員、棚橋委員から事前にご意見を頂戴しています。

河野委員からは、

- 「・今後 5～10 年後のアントレプレナーシップ教育は変化していくことが考えられるため、柔軟な対応が必要。
- ・大学院の設置も検討されたい。」との意見を頂いています。

棚橋委員からは、

- 「・改定方針案に示された文理融合や理系人材育成の方向性は、国の政策とも合致しており評価できる。
- ・現基本計画において期待していた 2 大学間の単位互換や連携について、1 大学体制であれば学部間連携が進みやすいと考えられ、リベラルアーツ教育の観点からも望ましい。
- ・三田洞キャンパスへのアクセスは課題。
- ・データサイエンス教育は、自然科学分野に限定せず、文系分野やまちづくりなど多様な題材に活用できる視点を取り入れてはどうか。
- ・データ分析では、結果の有意差をどう解釈するかが重要であり、理数的な見方や考え方を身につけることが必要である。
- ・デジタル人材育成の担い手へのニーズは高まる。新学部でデジタル分野を教える教員を育成されることを期待する。」との意見を頂いています。

以上です。

○杉山委員長

ありがとうございました。それぞれのご専門から意見を伺いました。

河野委員はアントレプレナーシップに多く関わられていますので、地域活性化の重要性、また大学院の設置に踏み込んだ意見を頂きました。

また、棚橋委員からは高校の立場から、将来どのような形が望まれるかという高い見地からの意見を頂きました。1 大学化のメリットを生かすということで、非常に前向きに捉えていただいていると思います。データサイエンスの重要性に関するコメント、国の方向性へのご理解も頂きました。

それでは、名簿に従ってご意見を頂きたいと思いますので、斎尾委員からお願いします。

○斎尾委員

短期間での取りまとめ、ありがとうございました。

意見としては、まず岐阜市の公立大学が一つになるという方針は、地域外の人から見て分かりやすくなったと思います。ただ、資料1を見ると、「霞ヶ関がこう言っているから変えました」と聞こえます。市に意思がないようにみえるのはよくないです。国が方針を変えたら市も変えるという話ではなく、市としてどのような公立大学にしていくのか、その強いコンセプト、公立大学の存在意義、位置付けが、昨年度よりも更に重要になったと言えます。

将来、市に貢献してくれる人材、一度外に出ても市に戻ってくる人材を育成することが大事だと認識していますが、文系ではなく理系が必要だから理系にしたと言い切るのは非常に危険ではないかと思います。

理系のみで大学を卒業し、理系学生をよく知っている立場からの私見ですが、理系の学生は技術を習得したいという感覚で大学に来ますので、地域の文化や歴史等に興味を持つことは相対的に少ない傾向です。今回、公立大学として一つになるので、より岐阜市の歴史や文化を理解し、大事にしてくれる人材が必要ではないかと思います。何度地域外に出てもいいと思いますが、Uターンしてくれる人材の育成がとても大切だと思いますので、全てを理系に振り切らず、地域の文化をきちんと学べる仕組みが必要だと考えます。資料1を見ると市の歴史や文化への視点がないように見え、非常に気になりました。

同様に、参考資料5の基本計画に大学のグランドデザインがあります。この根幹は、改定後も、設置の意義や基本理念は変わらないと思いますので、その観点を大事にした方がよいと思います。学生に市の未来を担ってもらうという強い意志、コンセプトが重要だと思います。

最後にキャンパスの利用方法、運用方法ですが、岐阜薬科大学（以下「薬大」

という。) が加わり様々な可能性が増えてきたので、この機会を有効に活用し、早急に決めるのではなく、じっくり考える時間確保も重要かと思います。利用しなくなるキャンパスが出てきた場合は、その後の有効活用についても同時に検討していくことが大切かと思いました。以上です。

○杉山委員長

ありがとうございます。非常に重要なポイントをお話しいただいたと思います。コンセプトについては、薬大と一緒にする意義やその必然性が当然問われてきます。我々がこれまで基本計画で議論してきたこととの繋がりがまだ弱いように感じられ、私も斎尾委員と同じ印象があります。これからそこが難しい作業になるのではないかと思います。

続きまして、中田委員からお願いします。

○中田委員

今回の新たな計画全体については賛成と言いますか、リーズナブルなところに収まったと感じます。昨年の委員会では、大きな方向性が決まっているという話もありましたので、申し上げた部分と申し上げなかった部分がありますが、開設に 8 年かかる点については、時代の先が読み切れないので、やれるところから、小さく生んで育てていけばよいのではないかと申しました。今回の計画の方が、取組が明確化したのではないかと思います。

斎尾委員のご意見にも通じますが、前回少し強く申し上げたのは、大学を具体的にどうするかや、短大が変わっていかなければならないという話もあるのですが、やはり岐阜市として何をするかをしっかりと示した方がよいということです。例えば、学部の細かい分野は状況によって変わり得る部分もありますが、岐阜市として、薬大も含めて公立大学を設置することを市政にどう位置付けているかがあると思います。これから基本計画に書き込んでいかれるのだと思うので、そこを引き続きよろしくお願いします。

また、資料にあるデジタルや理系、データサイエンス、建築デザインについて、国の方で理系への転換や文理融合などのコンセプトが語られていますが、国も必ずしも明確なイメージがあるわけではなく、まだ全体的にこうだろうという方向性を示している段階です。これから実際に学部を設置し、具体的なカリキュラムを走らせたときに、現実の社会の変化の方が大きすぎて合わない部分が必ず出てきます。

先日、市長がいらっしゃった際にも強く申し上げましたが、学部を設置した瞬間に大学改革を始めるくらいでないといけません。もちろん設置計画履行状況等調査という 4 年間の縛りはありますが、新たな時代にどんな学部や魅力を打

ち出していくのかということを経験的な発想でやっていかないと、具体的にどうすべきとはなかなか言えませんが、作った瞬間に陳腐化していくことは大いにあり得るので、専門の先生方によく意見を伺って進めていただきたいと思います。

また、一つの大学になるのであれば、大学全体の方向性を大学のリーダーシップの下でご検討いただきたいと思います。そこに市が政策として裏付けを頂ければと思います。

○杉山委員長

まさに仰るとおり、岐阜市がどうしたいのか、岐阜市の政策の中にどう位置付けられるのかが重要なのではないかと思います。

また、データサイエンスについても、今はデジタル人材が足りないのが必要だと言われていますが、50年後どうなっているかはわかりません。Googleは既に人員を削減し始めていることを考えると、日本は対応が遅いと言われますし、将来的にそれでよいのかということを経験的に考え始めなければならない時代になっています。今、AIの急激な発展で我々がどうすればよいか戸惑っている部分がありますので、そこは常に考える必要があると思います。

それでは加藤専務理事、お願いします。

○加藤専務理事

事前によく説明いただいたので、経緯は自分なりに理解しているつもりです。中田委員が仰ったように、基本計画の変更の方向性はこれがよいのではないかと思います。地域に大学があることは、社会課題を解決してくれる大変心強い存在だと感じています。

文理融合については、多分30年くらい前にMoT (Management of Technology、技術経営) という話があり、現在とは反対に経営がわかる理系の方を育てるということでしたが、それが今、繰り返されているように思います。

デジタル人材については、単に今あるプロセスの置き換えや生産性の向上だけでなく、新しい仕組みやビジネスなど、本当に画期的なものが出てくることを期待しています。そのためには、文系や理系ということではなく、両方がきちんとわかる方が育つとよいと思います。新大学では、それを教養教育の部分で共通科目としてやっていただけるということなので、とても心強く感じています。

グランドデザインは、先ほどのお話のように変わらないものだと思います。特に「まちづくりにもたらす効果」において「まちの賑わい創出」や「新大学の設置は社会貢献でありまちづくりそのもの」という言葉が出てきますが、そうした本質をしっかりと見ながら進めていただければ、経済界としては大変心強く思

います。

○杉山委員長

地域や岐阜市が様々な課題を抱えている中で、新大学に対する期待は非常に大きいということだと思います。昨年度、その形について議論を重ねてきましたが、それをこの後にどう生かしていくのかが重要です。

続きまして、オンラインで参加いただいている吉田委員からお願いします。

○吉田委員

斎尾委員と同じく、ちょっと会場の議論が途切れ途切れで聞こえていますけれども、内容は把握できていると思います。

せっかく薬大と一緒にになるので、そちらとのシナジーを考えていけるとよいと思います。大学機関が一つにまとまるので、市が運営する大学として、市民に役立つものがぜひ必要ではないでしょうか。

以前のグランドデザインですと、社会科学系と理系的な学部を想定しているとのことでしたが、今回、理系をメインにして新しい学部を作り、社会科学系、ビジネスやアントレプレナーシップの概念は全学でやろうということになりました。市民にとって重要な大学という観点では、市民が持っている社会課題等を理系のセンスで解決するという部分がとても重要になるのではないかと思います。今回、「理系」は前面に出ましたが、先ほど斎尾委員が仰ったような、岐阜市や文化を大事にされる方といった社会科学系の要素が見えにくくなっている気がしますので、名前の付け方や、新大学としてのブランディングなどが重要になってくるように思います。

薬大の卒業生がどこに就職されているのかよく存じ上げないのですが、岐阜で活躍されている方が多いのであれば、そこにもヒントがあるのではないかと思います。築き上げた薬大のブランドがあると思いますから、それを活用して、これからのデジタルに対応できる人材を育成する点をより強調できるのではないかと思います。

以前、私は工学部に在籍しており、大学にデジタルメディア学部が新設されたのでそちらに異動して研究と教育を行っていますが、そこでも、ツールだけではだめだよねということが様々な場で言われています。ツールを使いこなすだけではなく、提案できる学生、課題に対して何ができるか考えられる学生を育てる必要があります。先ほどDXに関連してツールを使うだけ、置き換えるだけという話がありましたが、やはりそうではなく、新たに概念自体を変えて、更にエンジニアリングの力で変えていける人材が必要ですので、そこを新しい大学の中でしっかりと構築できるとよいと思いました。

開設の年度が決まったということで、これから皆さん頑張って動いていかれるかと思いますが、最初に通うキャンパスが少し市の中心部から外れてしまうことになったかと思いますが。都心の大学では、以前は郊外で教養教育を受けてから都心で専門教育を受けるという流れでしたが、その辺りが全部都心回帰してしまっています。やはり学生が人が集まるところで勉強したいと思うかもしれませんが、最初はどうせざるを得ないというのがあるかもしれませんが、ゆくゆくはちゃんと中心部でやる、あるいは以前から岐阜市全体をキャンパスにするという話がありましたので、その辺りを工夫して、令和 11 年度に入学する学生が自分が岐阜市の真ん中で勉強していることを体感できるような、何か納得感を出していただけるとよいのではないかという印象です。

○杉山委員長

3 点ほどお話を頂きました。薬大とのシナジー効果をどう考えるか、これまで議論してきた歴史や文化の観点をどう取り入れていくか、理系的なセンスでといったご経験を踏まえたご意見でした。

先ほど棚橋委員のご意見にもありましたが、キャンパスを三田洞という市の中心部から少し離れたところに持っていくことを、どううまく捉えてこの構想に入れるかがポイントになるかと思いますが。

それでは大田委員お願いします。

○大田委員

本日はお忙しいところありがとうございます。この 2 月に基本計画を策定しました。それまで本委員会の皆様にご議論いただきましたことを感謝申し上げます。その後、先ほど説明がありましており、世の中の動きが非常に激しくなる中、岐阜市の高等教育をどうすべきかという視点で議論すべきだというご意見もありましたが、基本計画の中身について検討してまいりまして、本日、改定案として提案させていただいた次第です。

全般としては、方向性がはっきりしたのではないかとのご意見を頂きました。私自身、基本計画の段階では懸念もありました。例えば、岐阜市立女子短期大学（以下「岐女短」という。）の今年度の入学者数は、少し緩やかになったものの下げ止まらない状況で、定員の 7 割を切っている状態です。少子化の中、女子大、短大のニーズの低下を踏まえると、全体の縮小は止められない状況ですので、元々の基本計画については時期と実現性に個人的に課題も感じていました。

今回の 1 法人 1 大学という案は非常に合理的で、ご指摘のあった開設時期も早まりました。中田委員が仰ったように、企画した段階から陳腐化が進むという話もありますので、開設が非常に早まった点が現在の岐女短を運営するうえで

は有難く思っています。

この基本計画の改定の方向性を認めていただければ、今後グランドデザイン等、更に議論していきたいと思っています。

薬学部とのシナジーは重要です。また、先ほど斎尾委員からご指摘があった岐阜市の大学であるということについて、岐女短では地域に密着した授業を実施しており、「岐阜学」として1年生全員が半年間、岐阜の歴史や文化等について外部の講師も招いて学んでいます。その中で一人一人が岐阜の課題を見つけ、卒業演習において市長になったつもりで解決するということを行っています。地域の連携や市役所でのインターンシップは岐女短だからということもあるかもしれませんが、地域密着が岐女短の特徴だと思っていますので、新大学の中にもそうしたものを生かしていければよいと思っています。

ご指摘いただいた部分をこれからしっかり埋めて、新大学のグランドデザインについて議論してまいります。

○杉山委員長

今、岐女短で行われている教育や、昨年度の議論の内容を踏まえて、基本計画を埋めていくご発言でした。それらと今回の方針変更とをどう繋げるかには課題もあるかと思います。

概ね皆さんからご意見を伺いました。今回の方針変更は、致し方ないと言ってよいかわかりませんが、ご意見の状況はそうなのかなと思います。

一方で、昨年度から大きく動いた部分について、理系に完全にシフトしてしまってもよいのか、文化や歴史といった要素をどうやって入れていくか、薬学部と一緒にするにあたっての整合性が課題として上がりました。

また、令和11年度開設を目指すことが明確になりましたが、これから急ピッチで作業する必要があるところも課題の一つです。

ここまでの議論について、事務局あるいは関係者からご意見などあれば伺いたいと思います。

○杉原企画部長

皆様からご指摘いただいたグランドデザインに関しては、加藤専務理事のご発言にもありましたが、基本のところはぶれずに、これまでご議論いただいたものを踏襲し、理念も大事に継承するという考え方で進めたく思います。具体的な内容は精査の必要があると思っています。

また、都市全体をキャンパスとすることや、地元の就職に繋げることは大事なコンセプトですので、それらについても従前の考え方を踏襲し、改定後の基本計画に含めていけるよう、これから詰めていきたいと考えています。

○杉山委員長

ありがとうございました。

本委員会では、どんな大学を作るとよいかをずっと議論してきましたので、その点は従前の考え方を踏襲することでよいかと思いますが、薬学部と一緒にすることについては、整合性のとり方を考える必要があります。やはり岐阜市として何がしたいかが重要ですので、そこが一致するとわかりやすくなります。例えば、薬学部と一緒にすれば、健康や医療などを重視することになるかと思います。そのとき、岐阜市がそうした宣言をしたり、その宣言に基づいてこういったことをしますと説明したりすると、スムーズに話が進むのではないのでしょうか。

現実的に薬学部と一緒にしなければならないということはわからなくもありませんが、そこに単純に流されることなく、岐阜市としてどうしたいのか、地域として必要な大学はどのようなものかをしっかり定めていくことが重要です。

特に、令和11年度開設なので相当急ピッチで進めなければなりません。私の岐阜大学での経験上、現時点で具体化しているくらいでようやく間に合うかというところです。今年度末には文科省に相談を始めるくらいのスピード感が必要なので、本当に間に合うかというのが正直なところですが、期限があった方が作業が捗るとも言えますので、ぜひ具体的な作業を進めていただきたいと思います。

加藤専務理事が間もなく退席されますので、これまでの意見を踏まえてご発言があればお願いします。

○加藤専務理事

今お話がありましたように、せっかく薬学部と一緒にになるので、様々な技術が経済界でどう使えるかという方向に広がっていくとよいと思っています。

データサイエンスも、過去のデータ分析というより、そこから仮説を立てて検討し社会課題の解決に繋がっていくようなモデルを、せっかく大学が地域にあるので、地域のフィールドで実装しながらやっていただけると、まちの魅力がより高まるのではないかと思います。よろしくお願いいたします。

○杉山委員長

ビッグデータをどう使うかは全ての分野において必要ですし、まちづくりにおいては不可欠だと思います。

他にご意見があれば伺いたと思いますが、いかがでしょうか。

○中田委員

前回の基本計画では、開設は相当先のこととして検討する時間もありましたが、今回、開設が早まったので、岐女短の先生方にも協力を仰ぐ必要があると思います。岐女短に今どんな先生がいらっしゃり、新学部にはどのような専門の方をお迎えするかは専門家が検討されるのだと思いますが、今いる先生方の力を借りようとする、心情的にも専門分野の戦力としても、全体の計画にコミットしていただかなければならないのではないかと思います。

状況がわからないのであまり踏み込んだことは申し上げられませんが、やはり岐女短の先生方からすると、今回の方針変更は激震が走ると言いますか、大きな変化を乗り越えなければならないという気持ちになられると思います。岐阜市のために教育をしていくという部分は変わらずやっていかれると思いますので、そこを丁寧に説明し、取り組んでいただく必要があります。

○杉山委員長

令和11年度という時期が決まったことで、先生方には大きなインパクトがあり、考えていただかなければならない段階に入ってきたということで、現実的な話になってきたということかと思います。

斎尾委員から何かありますでしょうか。

○斎尾委員

昨年度、グランドデザインの議論を経てのコンセプトが重要であり、生かしていくことが大事だと思います。

また、岐阜学、地元学や、岐阜市の歴史や文化等の学びの大切さを岐阜市の主張として強調していけるとよいと思います。グランドデザインの柱、軸がしっかりあれば、国・省庁の方針がたとえ変わっても、市の学びの拠点となるのではないのでしょうか。

今後は、キャンパスの運用方法や、新学部・学科に4年生まで進学してきたときの想定をし、市民に見せていくことが大事ですので、その計画を進めていくとよいと思います。

また、昨年度の議論を経て、社会人の学び直しについても基本計画に入っていたと思います。少子化社会の中で18歳人口は減少しますので、大人の学び直しに関する計画も大事かと思いました。

○杉山委員長

これまでの議論が、それなりに少子化や社会情勢もにらんだ内容でしたので、その内容は踏まえつつ、どう整合性をとるかが重要になるというご意見でした。

今回、キャンパスが三田洞になり、かなり郊外になりましたので、ここに学生

を引っ張ってくるのは意外と難しいのではないかと思います。ただ、将来的には駅の近くに移転しますし、斎尾委員のご発言のようにまち全体を使った教育は市の中心部から離れていてもできる可能性がありますので、よい方法を考える必要があるかと思います。

○斎尾委員

もう1点。薬大が加わりますので、薬大関係者の方々に、岐阜市立大学になることが魅力的に感じられるよう、新・市立大のメリットを十分説明する必要もあると思います。難しい部分ですが、よろしくお願いします。

○杉山委員長

原学長、いかがでしょうか。

○原理事長兼学長

薬大は創立94年目になり、それなりに知名度とブランド力があると思っています。大学の統合については、先生や卒業生の方々、学内にも説明していますが、名前というものは非常に大切ですので、そこにこだわる方はいらっしゃり、大変悩ましいところです。一方で、名前だけでは生きていけない時代が来ており、改革していく必要があるため、岐阜市立大学の薬学部として前向きに変わっていく、変えていくということを全面に出していきたいと考えています。

実際のところ、私も学長としては「岐阜薬科大学」の名前を残したい気持ちがありますが、理事長の立場に立つと、このままではいけないという思いがあります。部分的な最適では「岐阜薬科大学」ですが、全体的な最適として「岐阜市立大学」とし、市を盛り上げていきたいと思っています。岐阜薬科大学そのものも前向きに改革していくのだと大きく気持ちを切り替え、これをスタートだと捉えたいと思っています。

これまで支えてくださった岐阜市はもちろんのこと、関係者の方々には丁寧に説明しています。いろいろなご意見はありますが、きちんと説明し、薬大のこれからを見てほしいという思いで改革をしていきたい所存です。

東京科学大学も、規模は全く違いますが大学名を変更されました。名前を変えることによって改革の旗印としたいと考えています。

○杉山委員長

薬大は伝統もありブランドを確立されている中で、更にステップアップしていくことをお考えだという力強い言葉を頂きました。

薬剤師の養成から始まった学校だと思いますが、今はそれだけでは足らなく

なっているのかもしれませんが。薬学を通してどのように社会の福祉に貢献するかを考えていけば、新学部との合致点もあると思います。薬大の専門性を活かしながら、岐女短が培ってきた伝統を取り入れていくことには困難もありますが、それをこれから考えつつ、市の政策の中でどう位置付けるかということになるかと思います。

吉田委員から、特にデジタルの観点からいかがでしょうか。

○吉田委員

岐阜市の考え方という視点で改定案を見ているのですが、大学というリソースを市民の方がどう使えるかを考えたとき、大学が2つあるとややこしくはありますので、それが一つになることは非常によいことだと思います。

薬大に1世紀近い歴史があり、ブランディングを確立されていることは素晴らしいことですが、それを高めていって今後100年、200年どう戦っていくか、他のまちとどう戦っていくかという話も出てくると思いますので、今の薬大のブランドを活かしつつ、更にこの先100年、200年戦えるような岐阜市の大学としていくということを、ぜひコンセプトとして掲げていただきたいというのが外から見ている者の意見です。

岐阜市の方も大学というものを大事にしていると思いますが、その際、自分たちの大学だということをしっかりとイメージしていただく必要があります。その際、デジタルという部分で、デジタルコンテンツとしていろいろと発信していくこともできますし、せっかくデジタルに強い大学を作るのであれば、他の自治体に先駆けていろいろなことがやれるという特色があると面白いのではないのでしょうか。

特に最近、ビッグデータを使ったデータ処理について、データを持っているところが強いという話がよくあります。どこがデータを持っているかを考えたとき、やはり自治体はいろいろなデータを持っているので、それをうまく利活用し、自治体ならではの発信やDXを牽引していけるような大学になるといいのではないかと思います。

斎尾委員も仰っていたように、これから高校生の数が減少するのは統計的に明らかで、確実に予測されます。その中でどう大学が生き残るか考えたとき、社会人の方も大学に呼び込むことはとても重要です。私立の場合、社会人が入学しようとする躊躇があるかもしれませんが、この大学はそこが非常に強いのではないかと思っていまして、自分のまちがやっている大学で、受け入れ先がたくさんあり、学び直しができて自分の生活も良くなるという見せ方ができると、高校生だけではなく社会人の方にも来ていただくことができるのではないのでしょうか。そのとき、郊外のキャンパスに物理的に行かなければならないとやはり大

変だと思うので、そういう意味でも、市の中心部で学べる、あるいはデジタルで学べるといったことを頑張っていたけるとよいと思います。

説明を伺って考えていたのが、市として運営にお金を出すにあたり、市民の方に納得感をもってもらう必要があるということです。市の図書館などを大学と一体的に運営し、市民の方が学びやすくかつ図書館の質を高めることや、ふるさと納税のような仕組みの利用など、様々な方法が考えられるかと思います。そうしたものをぜひ積極的に活用して、市がやる大学の面白さをぜひ活かしていただきたいと思います。

○杉山委員長

市で持つ大学はどういうものかという観点からご意見を頂きました。自治体を持つデータを使った教育について、また、おらが町の大学というものがうまくできれば高校生だけではなく社会人も呼び込めるということや、市民のリソースとして大学を活用するといった考え方があったかと思います。非常に重要な観点かと思うので、今後検討いただければと思います。

いろいろな意見を頂きましたが、大田委員からいかがでしょうか。

○大田委員

様々なご意見やアイデアを頂きありがとうございました。中田委員からは、現職の先生に寄り添ったご発言を頂き感謝申し上げます。今後、この話がオープンになっていきますので、教職員や学生の皆さんにしっかりと説明していくことが大切だと考えています。

私どもは人材そのものが大学のコアだと思っていますので、教員について、カリキュラムがあってそこに先生を置くということではなく、その先生が持っているスペシャリティやネットワークを新大学で有機的に役立てることが理想です。そのため、教員一人一人の顔を見ながら、教育プログラムについて議論していきたいと思っています。例えば、新大学では栄養士の養成課程はなくなりますが、これまで岐女短で培った食品や健康、未病予防といった内容は一般教養として薬学部と共有できるかもしれません。

このように先生方の力を借りて、新大学、新しい学部に繋げていきたいと思っています。

○杉山委員長

大変重要なコメントを頂きました。改組などは先生方の都合で行いがちですが、そうではなく、どのような人材を育成するのか、そのためにどうカリキュラムを作るのか、それにはどのような先生が必要かという方程式で進めていかれ

るということかと思えます。専門性を持っておられる先生もいれば、かなり厳しい話も出てくるかもしれませんが、それは必要なことだと思います。また、先ほど原学長から力強い言葉を頂きましたが、薬学部の方でもどう変わっていくのかという議論もあるかと思えます。

意見を一通りいただきましたが、更に一言という方はいらっしゃいますでしょうか。頂いたご意見を事務局でまとめ、それを反映したものを次回また皆さんに見ていただいて整理するという流れになるかと思えますので、言い足りないことなどあればお話ししたいと思えます。

○原理事長兼学長

斎尾委員も仰った新学部と薬学部とのシナジーについて、十分ご説明できなかったかもしれません。まだ検討の最中ではありますが、両学部の関係性が今一つ明確ではないとのご意見に対し、もう少し詳しく説明させていただきます。

基本的には、岐女短が持っている伝統や技術、これまでの実績は最大限に生かし、栄養に関しても、学部に入れないにしても、薬学との関係性で何か作れないかと考えています。

新学部にはデータサイエンスコースがあり、これは薬学との関係がわかりやすいかと思えます。医療系のデータサイエンスは非常に組み合わせがよく、私もデータ分析を行っています。そこに岐女短の要素も入れていきますが、先ほど、理系のデータサイエンスだけでなく、岐阜市のためには文系のデータサイエンスも入れるべきというご指摘がありましたが、非常に納得のいくストーリーであると感じました。

建築デザインは薬学とどう連携するかがわかりにくいかもしれませんが、建築というものは岐阜市にとってもどこにおいても非常に重要ですが、岐阜県内にはそれを教える場がありません。また、建物を建てるだけではなく、岐阜市の都市計画における建築もあります。

もう一つ我々が考えていますのは、これまで薬剤師は待っていれば患者さんが来て、処方した薬を渡してコミュニケーションするという形でした。そのような時代から、今は積極的に患者さんのところへ行き、介護まで踏み込む必要が出てきています。かかりつけ医療や在宅医療としてどんどんと外に出ていったときに、我々薬剤師はその方の家を訪問し、認知症などの病状や車椅子を使っているということを目にしますので、住環境や建築についても、我々のアイデアを合わせて作り上げていけるのではないかと考えています。医療建築という言葉はありませんが、そのようなイメージで考えています。

同様に、デザインも様々な分野がありますが、そこに薬学の視点を入れていきたいと思っています。

薬学と新しい学部が関係して、岐阜市やそれ以外の地域にも広がっていくようなモデルケースを新学部との連携の中で開拓していきたいと考えています。

もちろん、人的交流についても、薬学部には大学院があるのでそちらへ行ったり、岐阜大学の学部に行ったりということを考えています。地域でも教育の連携をしていきたいと考えていますので、新たな視点で、岐阜市立大学薬学部と新しい学部が市のために役立つよう作り上げたいと思っています。

○杉山委員長

力強いお言葉を頂きました。元々、岐女短は良妻賢母を標榜し、衣食住の分野で発展してきました。衣食住という人が豊かに暮らすために培ってきたものを、どのようにして薬学という大きな専門性と繋げていくのか、そこに大きな流れができるというのが大きなお話だったと思います。

この辺りが市の政策も含めて繋がっていくと素晴らしいものになるのかと思いますし、ぜひそうしていただきたいと思います。

初めに斎尾委員から、見せ方として少し寂しいのではないかという趣旨のご発言がありました。財務省や文科省が言っているからという理屈ではなく、やはり岐阜市として、大学としてこういうことをやりたいから方針を変更するという話の進め方になるとよいですし、そのような見せ方も必要だと感じます。

少し私の感想になりましたが、そうしたことも含めて、次回また議論を進めていきたいと思いますので、一旦ここまででよろしいでしょうか。

○事務局（小川大学改革推進課長）

加藤専務理事がお時間です。

○杉山委員長

加藤専務理事、最後に何かよろしいですか。

○加藤専務理事

はい、大丈夫です。

○杉山委員長

どうもありがとうございました。

それでは資料2の説明をお願いします。

◆今後のスケジュールについて

（事務局から資料に基づき説明）

○杉山委員長

ありがとうございます。今後のスケジュールについて何かご質問あれば頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

次は8月18日を予定しております。ぜひご参加いただき、積極的なご意見を頂ければと思います。

それでは本日の議事は以上です。せっきくの機会ですので、何かここで一言あれば頂きたいと思いますが、いかがですか。よろしいですか。

それでは本日の内容は以上とさせていただきます。進行を事務局にお返しします。

○事務局（小川大学改革推進課長）

本日は、活発なご議論をありがとうございました。頂いたご意見を踏まえ、基本計画の改定に向けて手続きを進めてまいりたいと思います。

今回の会議は8月18日14時からの予定です。改めて通知させていただきますのでよろしくお願いします。

それでは、以上で本日の会議を終了します。お忙しい中ありがとうございました。